

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 13 日現在

機関番号：24302

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2010 ～ 2012

課題番号：22720106

研究課題名（和文）

モダニズム期の文芸誌・美術誌と T. S. エリオットの文化観の考察

研究課題名（英文）

A Study of T. S. Eliot's Concept of Culture through Literary and Art Magazines during Modernism

研究代表者

出口 菜摘（DEGUCHI NATSUMI）

京都府立大学・文学部・講師

研究者番号：80516138

研究成果の概要（和文）：

T. S. エリオットが編集長を務めた文芸誌『クライテリオン』の編集方針や寄稿記事を読む解くことで、エリオットの関心がどのような社会的出来事や思想潮流に向けられていたかを考察し、彼の作品や文化観のバックグラウンドを明らかにした。特に、イギリスとアメリカ両国の雑誌記事の比較を通じて、イギリスにおいてアメリカ文化がいかに流入されたのかについて考察し、エリオットの文化観の形成や作品にあらわれるアメリカ英語について研究を行った。

研究成果の概要（英文）：

Through analyzing articles and reviews printed in a literary magazine *The Criterion*, which was edited by T. S. Eliot, the research explored the then current social situation and the cultural network around Eliot, and clarified the background of Eliot's work. In particular, focusing on articles concerning Americanization in Britain during the modernism, the research examined how his concept of culture was formed.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	700,000	210,000	910,000
2011 年度	600,000	180,000	780,000
2012 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	1,800,000	540,000	2,340,000

研究分野：英米・英語圏文学

科研費の分科・細目：英米・英語圏文学

キーワード：モダニズム、T. S. エリオット、文芸誌

### 1. 研究開始当初の背景

先行する研究により、T. S. エリオットが編集長を務めた『クライテリオン』の方針や当時の文芸誌の刊行状況や売上部数など、また文壇・知的ネットワークがどのようなものであったのかはある程度明らかになってきた。しかし、文芸誌研究をエリオットの作品解釈に結びつけるといった精緻な研究は、いまだに十分に進んでいない。そこで、『クライテリオン』へのエリオットの寄稿や「コメンタリー」で論じられる当時の文化事象を、同時期に書かれた作品と比較・検討する必要がある。

### 2. 研究の目的

(1) 20世紀初頭のモダニズム期における文芸雑誌や美術誌を通じて、当時の文化的・知的ネットワークを整理すること。

(2) その上で、エリオットの文化観や作品を当時の文化状況のなかで理解する。

### 3. 研究の方法

(1) エリオットが編集長を務めた『クライテリオン』誌を中心にして、モダニズム期の文芸誌・美術誌の傾向、刊行状況の整理を行う。

(2) 『クライテリオン』に関しては特に詳しく研究をする必要があると考え、同誌の寄稿者の思想・作品内容の読解や考察を行う。また、エリオットの書簡や各号の「コメンタリー」から、同誌の編集方針がどのようなものであったかを確認する。

(3) 上記の作業を通じて、エリオットの関

心・思想、またそれらがいかに作品に影響を及ぼしたのかを考察する。

### 4. 研究成果

(1) T. S. エリオットが編集長を務めた文芸誌『クライテリオン』の編集方針や寄稿記事を読む解くことで、エリオットの関心が当時のどのような社会的出来事や思想潮流に向けられていたかを考察し、彼の作品や文化観のバックグラウンドを明らかにした。

(2) エリオットの書簡や寄稿依頼文、広告などの読解から、『クライテリオン』誌がヨーロッパ文学というひとつの「同時的な秩序」を目指したことを明らかにした。そして、同誌はエリオットが理想とする伝統の再現の場となっていると結論づけた。

また、エリオットは寄稿者に「高次の知的活動を維持する」と「非個人的な忠誠心」を求めており、この態度は評論「伝統と個人の才能」で論じられる「非個性論」に対応することを明らかにした。

(3) 『カメラ・ワーク』誌の分析を通じて、モダニズム詩人らが「視覚」へ寄せた関心に焦点をあてて研究を進めた。科学技術の発展や都市生活のスピード化といったような変化と詩作がどのように結び付いているのかについても考察した。エリオット作品に見られる視覚への関心については、2010年に刊行された『モダンにしてアンチモダン—T. S. エリオットの肖像』に「映画的世界の見方と表し方」として発表した。

(4) ミュージックホールをめぐるモダニストらの発言や態度を考察した。ミュージックホールは当時の文人らにあって論じられるベ

きパフォーマンス形態であった。エリオットはミュージックホールについて『クライテリオン』誌だけではなく、『ダイアル』誌においてしばしば言及している。またエリオットのコメントだけではなく、『イングリッシュ・レビュー』誌の編集にあたったFord Madox Fordの手紙にみられるミュージックホールへの言及や他の文芸誌の掲載記事の読解を行った。

その結果として、「ミュージックホールについて語る」という行為には、当時の社会的文脈において一定の意味が伴うこと、またその「論じかた」に共通のスタイル・様式があることを明らかにした。

(5) アメリカで刊行された『ダイアル』誌、映画雑誌『クローズ・アップ』の記事を取り上げ、イギリスとアメリカ両国の雑誌記事の比較、またそれらに向けたエリオットの態度を検討した。そして、イギリスにおいてアメリカ文化がいかに流入されたのかについて考察し、エリオットの文化観の形成や作品にあらわれるアメリカ英語について論考を行った。この成果の一部は、日本T. S.エリオット協会シンポジウム「アメリカ化するイギリス—T. S. エリオットと戦間期のイギリス」で、「アメリカ化するイギリス」として発表した。

またアメリカ英語についての考察は、その一部を『世界の英語を映画で学ぶ』に寄せた「アメリカ英語」に反映させた。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 1 件)

①出口菜摘、「トルーマン・カポーティの描く絵：“The Headless Hawk”におけるシュルレアリティ」、『コルヌコピア』、査読有、22・23 合併号、2013、57-72

[学会発表] (計 1 件)

①出口菜摘、「アメリカ化するイギリス—T. S. エリオットと戦間期のイギリス」、日本T. S. エリオット協会第 25 回大会 シンポジウム「T. S. エリオットと戦間期のイギリス」、東京学芸大学、2012 年 9 月 16 日

[図書] (計 2 件)

①出口菜摘、他、研究社、「映画的世界の見方と表し方」、『モダンにしてアンチモダン—T. S. エリオットの肖像』、2010、3-17

②出口菜摘、他、松柏社、「アメリカ英語」、『世界の英語を映画で学ぶ』、2013、41-58

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]  
ホームページ等

なし

## 6. 研究組織

(1) 研究代表者

出口 菜摘 (DEGUCHI NATSUMI)

京都府立大学・文学部・講師

研究者番号：80516138

(2) 研究分担者  
なし ( )

研究者番号：

(3) 連携研究者  
なし ( )

研究者番号：